

令和5年度 第4回 授業研究の記録 高学年分科会

研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

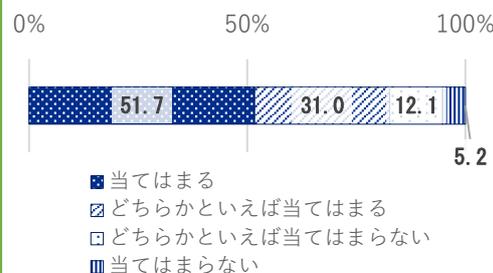
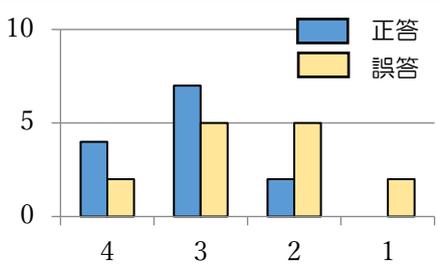
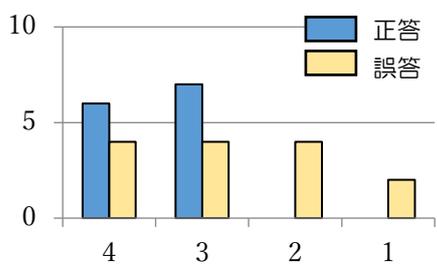
分科会提案

東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析より、以下の3点について、本単元で重点的に改善を行う。

他の人と考えを交流する活動

他の人や先生に説明する活動

物語の構成要素に着目し、粘り強く読む



【「国調査」国語 設問②の四】
「複数の条件のもとに、文字数を考えて自分の考えを文章で書く問題」では、「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。」の項目に肯定的回答をしている児童の正答率が高い傾向にあった。

【「国調査」国語 設問②の四】
「複数の条件のもとに、文字数を考えて自分の考えを文章で書く問題」では、「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」の項目に肯定的回答をしている児童の正答率が高い傾向にあった。

【「都調査」4(2)「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。」の項目において、否定的な回答をした児童が17.3%いた。
しかし、昨年度と比べると肯定的回答は4.4%増え、少しずつ意識が高くなってきている。



目指す児童像

他の人の意見を取り入れて、自分の考えを広げることができる。

自分の考えを整理し、他の人に伝えることができる。

物語の構成要素に着目し、物語の世界を捉えることができる。

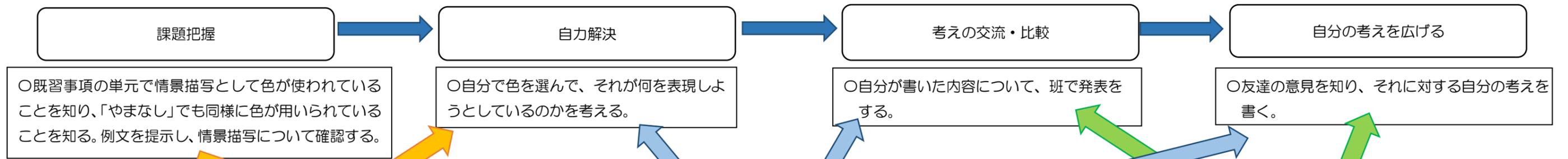
1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書き、広げよう

教材名 「やまなし」(国語・六 光村図書)

2 単元の目標

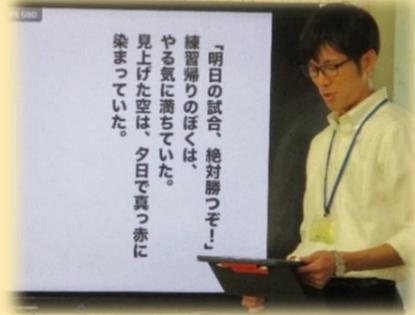
- (1) 比喩や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能】(1)ク
- (2) 物語の構成と対比について理解することができる。【知識及び技能】(1)ク
- (3) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ
- (4) 文章を読んで理解したことに基づく考えをまとめ、共有し、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ
- (5) 表現や物語の構成要素等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、自分の考えを書こうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 本時の流れ

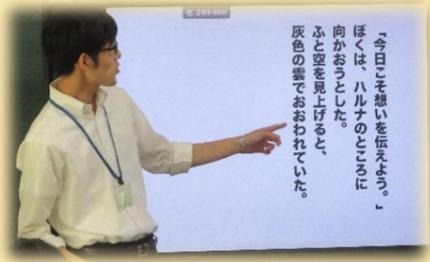


手だて1 情景描写に着目させる指導

児童の学習意欲を引き出す「色」に関する事例を提示し、情景描写に着目させるとともに、課題意識をもてるようにした。



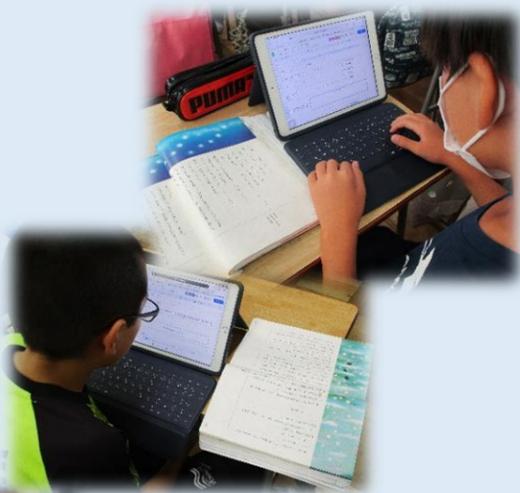
「やまなし」の作品世界を捉えるために重要となる色彩表現を、例を示しながら段階的に指導した。そうすることで、児童一人一人がすすんで学習に参加できるようにした。



やまなしに出てくる色に注目し、その色が何を表しているのかを考えよう。

手だて2 自分の考えを整理するための工夫

分かりやすく友達に説明するために、自力解決の時間を十分に確保した。一人1台端末に自分の考えを入力させることにより、叙述から読み取った情報を整理しやすくした。また、自分の考えの修正・改善ができるようにした。



考えることが難しい児童に対して、一人1台端末を使って相互閲覧できる機能を活用した。そうすることで、友達の意見を参考にしながら考えられるようにした。

手だて3 自分の考えを広げる機会の設定



叙述を基にして自分の考えを書き、それを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりする学習内容を本時で設定した。自分の考えを広げるといふ目標の達成のために、「叙述を基に自分の考えをもつ」、「自分の考えを友達と共有する」、「友達の考えに対する自分の考えをもつ」ことを単元の中で一つのサイクルとした。

また、一人1台端末を使って互いの意見を相互閲覧できるようにすることで、友達の考えのよいところを取り入れて書いたり、自分の考えを振り返ったりすることができるようにした。



児童に見られた様子

手だて1 情景描写に 着目させる指導	手だて2 自分の考えを 整理するための工夫	手だて3 自分の考えを広げる 機会の設定
<p>「色」に関する情景描写の例を授業の導入で行ったところ意欲的に情景描写に当てはまる「色」を考える様子が見られ、本時の目標にせまることができた。</p> <p>また、「やまなし」の作品世界を捉えるために重要となる内容の一つである色彩表現を、大型ディスプレイに提示しながら振り返ったところ、自分が分析したい色を選択する時の手だてとなった。</p>	<p>書くことが苦手な児童も、一人1台端末に入力することで参加することができた。さらに、叙述から読み取った情報を整理しやすくなったため、自分の考えの修正・改善する姿が見られた。</p> <p>また、一人1台端末で作成したシートを相互閲覧し、友達の考えを参考にすることで、自分で考えることに課題のある児童も考えを修正することができた。</p>	<p>友達と考えを交流しながら課題を解決する活動では、友達のよい意見を参考に自分の考えを広げることや、自分の考えを振り返ることができた児童が多数見られた。</p> <p>また、「叙述を基に自分の考えをもつ」、「自分の考えを友達と共有する」、「友達の考えに対する自分の考えをもつ」のサイクルで自分の考えを深めている児童が見受けられた。</p>

成果

- 一人1台端末を用いることで、友達の考えを取り入れやすくすることができた。
- 事例を示すことで、色が象徴することについて考える足場をつくることができた。
- 一人1台端末で相互閲覧をできるようにしたことは、考えることが難しい児童の支援につながっていて有効な手だてであった。また、短時間で児童自身の考えを広げることができた。
- 担任がコーディネーターのような役割になることで、児童の主体的な学習活動を引き出すことができた。

課題

- 班で交流することの必然性が低かった。「同じ色を選んだ人と交流すること」や、「違う色を選んだ人と交流すること」など、交流することの必然性について吟味し展開する必要があった。
- 単元計画を立てる上で、本時の位置付けが妥当であったかの検討が足りなかった。児童の解釈を多様に引き出すという点では、本時を単元計画の前半部分に実施した方がよかったかもしれない。
- 一人1台端末を活用して、どのように話し合い活動を充実させるか検討する必要がある。
- 友達の意見から自分の考えを広げるために、更に時間を掛けたり、詳しく考えさせたりする必要があった。